

るのではないだろうか。

大乘起信論によればカオスの源は無明にあるが、宇宙の創生進化のきっかけは重力にある。その重力の申し子であるブラックホールはシバの神の如く破壊と創造の神である。いや、われわれはブラックホールの中に居るのかもしれない。宇宙に対する認識を拓ける本書の創造性を高く評価したい。

海野和三郎（近畿大生物理工学部）

宇宙史の中の人間

岩波市民大学—人間の歴史を考える—1

岩波書店 海部 宣男著

定価2,100円 244頁

いつの頃からか、学問が個別科学となり、20世紀の後半には、寸断されて、自然を包括的に理解するという試みは今やディレクタントィズムとして蔑視される羽目になった。まことに個別化、要素化は効率よく機能して現代文明の隅々にまで浸透してその成果を謳歌している。この書は少年の頃、自然に親しんで、世界を理解しようとした心で、個別科学の天文学に入りながらも、宇宙とその中の人間の占める位置を理解しようとする精神を今も持ち続けて、この世界を解き明かそうと試み、広く語りかけようと書かれたものと思われる。

シリーズの題名が示すごとく、扱う範囲は宇宙のみならず、地球、生命にわたり、著者自身で考え直し、解き明して話してくれる。内容を紹介するよりも読んで欲しい。書評というより私の感想を述べる。

宇宙と地球と生物と人間の時間の流れが、あたかもおとりが俯瞰するように語られ、人間が偶然と必然のはざまに存在するのだということが不思議な感動をもって迫ってくる。

宇宙膨張の中から、重力は折り目、節目に働き、宇宙の一部をまわりから切り離して、凝集し、閉じた系“圏”を作ってきた；晴れ上がり→大構造→銀河→星→太陽系→地球と、次々と作ってきた

小さな一連の“圏”の形成がこの生命の発生と進化には決定的であった。

特に、その最後？の段階であるこの地球生命圏バイオスフェアの進化の項は著者の広い関心と深い考察が見られて、おもしろい。

ビッグバンの発見以降、宇宙を過去に遡り、高温の宇宙論が天文学によって語られてきた。このことは本書にも述べられているが、逆に冷却の方向へと下ってみると構造の多様性、物質の安定性を生みだし、ついに自己複製する生命にいたる過程を述べている点、新鮮である。宇宙、地球、生命の3つの分野が織りなす成果が一人の人によって途切れなく語られ、そして、生命存在の必然偶然にまで想いをいたす。

まことに今の時代は稀有の時なのであろう。20世紀、人間が宇宙の全風景のなかでたたずんで、まわりの世界を理解できるようになったのである。宇宙膨張の中で次々と切り離されて辿り着いた小さな地球生命圏のまゆ玉の中から、再び宇宙の初めを眺めて考え込んでいるのである。それとも、古来、いつも人間は問い掛けてきたように、相も変わらず宇宙と自分の存在のことを思いめぐらせているだけなのかも知れない。著者によって、各章のはじめに掲げられている古今東西の文学や哲学の断章はそのことを言おうとしているのだろうか。

21世紀は20世紀の正と負との遺産を否応なく受け継がなければならない。21世紀もまた、別の意味で稀有の時代とならなければならない。要素化と科学によって到達した自然理解は20世紀後半には限界に直面する。技術が伴ったことによる科学の飛躍的発展とその膨大深刻な影響である。また、科学が国家によって運営される事態となった。さらには、技術は人間に畏怖すべきものを見失わせた。

扱う範囲も文章も贅肉がなく、引き締まっていて、読んでいて小気味良いスピード感がある。何よりも該博な知識を統合する喜びを味わえる。文

科系の人には宇宙の仕組みと物質から生命への流れをパースペクティブに読み取ることができる。理科系の人には自らの見方で世界を理解しようと

する姿勢が伝わってくる。天文学を学ぶということの意味をもう一度省みる機会になるだろう。

佐藤修二 (名大理)

月報だより

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員 (ポスト・人数など)
2. (1)所属部門・所属講座, (2)勤務地
3. 専門分野
4. 職務内容・担当科目
5. (1)着任時期, (2)任期
6. 応募資格
7. 提出書類
8. 応募締切・受付期間
9. (1)提出先, (2)問合せ先
10. 応募上の注意
11. その他 (待遇など)

宇宙科学研究所教員

この度、下記の要領により教官の公募を行いますので、広く適任者の推薦、応募を求めます。

1. 教授 1 名
2. (1) 宇宙圏研究系 高エネルギー天体物理学第二部門
3. 高エネルギー天体物理学
X線、ガンマ線等の高エネルギー放射線による天体の観測的研究及び飛翔体搭載機器の開発研究、科学衛星計画の立案、実行を指導的立場で行う。
大学共同利用機関としての責務を理解し、同研究系の各部門と協力して、その任務の遂行にあたる方を求めます。
5. (1) 決定後、平成6年度のなるべく早い時期
7. (1)略歴 (2)研究歴 (3)論文リスト及び主要論文別刷 (4)研究計画 (自薦の場合のみ) (5)他薦の場合：推薦書2通、自薦の場合：本人について意見を述べられる者2名の氏名、連絡先。
8. 平成6年4月1日(金)必着
9. (1)〒229 神奈川県相模原市由野台3-1-1
宇宙科学研究所管理部庶務課人事係
電話(代表) 0427(51)3911
(2)問い合わせ及び資料の請求は下記に願います。
宇宙圏研究系研究主幹 榎野文命 内線2621
10. 封筒の表に「教授応募(推薦)書類在中」と朱で明記して下さい。
11. 選考は、宇宙科学研究所運営協議委員会に於いて行います。応募者に適任者がいない場合は、決定を保留することがあります。

1. 助教授 1 名
2. (1) 共通基礎研究系 宇宙計測システム部門
3. 飛翔体を用いた赤外線観測のための計測技術の開発。

赤外線による天体観測や惑星探査に必要な赤外線計測技術の開発に意欲的に取り組み、且つ指導的役割を果たす方を募ります。

なお、当研究所では、現在気球による赤外線観測、共用宇宙プラットホーム(SFU)搭載の軌道赤外線望遠鏡(IRTS)による観測計画を進めており、また、近い将来赤外線天文衛星や惑星探査衛星の打ち上げなども計画しております。この様な諸計画の推進にも積極的に協力でき、また、大学共同利用機関としての本研究所の任務を十分理解し、幅広く関連分野の研究、その他共同利用計画の遂行に積極的な役割を果たす方を希望します。

5. (1) 決定後、なるべく早い着任を希望
7. (1)略歴 (2)研究歴 (3)論文リスト及び主要論文別刷 (4)研究計画書(自薦の場合のみ) (5)他薦の場合：推薦書2通。自薦の場合：本人について意見を述べられる者2名の氏名、連絡先。
8. 平成6年3月31日(木)必着
9. (1)〒229 神奈川県相模原市由野台3-1-1
宇宙科学研究所管理部庶務課人事係
電話(代表) 0427(51)3911
(2)問い合わせ及び資料の請求は下記に願います。
共通基礎研究系研究主幹 奥田治之 内線2601
10. 封筒の表に「助教授応募(推薦)書類在中」と朱で明記して下さい。
11. 選考は、宇宙科学研究所運営協議委員会に於いて行います。応募者に適任者がいない場合は、決定を保留することがあります。

会務案内

PASJ 投稿規定の一部改訂

1. 引用文献の書き方について(変更点のみ)

○本文中での文献の引用：2人のときは姓の間を(,)で区切る：(Yamada, Suzuki 1993)。文章中ではYamada and Suzuki 1993とする。

○文献表の書き方：姓 名前のイニシアル 年号 雑誌